

# 基礎看護学実習要綱



社会医療法人社団三草会

三草会札幌看護専門学校

5期生

# 目 次

1. 基礎看護学実習の目的・目標・学習段階・日程表	-----	P 1～2
2. 基礎看護学実習Ⅰ		
1) 基礎看護学実習Ⅰ a	-----	P 3～14
2) 基礎看護学実習Ⅰ a 評価表・評価ガイダンス	-----	P 15～17
3) 基礎看護学実習Ⅰ b	-----	P 18～28
4) 基礎看護学実習Ⅰ b 評価表・評価ガイダンス	-----	P 29～31
3. 基礎看護学実習Ⅱ	-----	P 32～43
4. 基礎看護学実習Ⅱ 評価表・評価ガイダンス	-----	P 44～48



## 基礎看護学実習

### 実習目的

対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、対象が必要とする看護を考え実践できる基礎的能力を養う。

### 実習目標

1. 看護活動の実際を知り看護の機能と役割がわかる。
2. 看護の対象は、身体的・精神的・社会的な側面をもち、それぞれ関連していることがわかる。
3. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる。
4. 健康と生活の結びつきがわかり、対象に必要な看護を考え実践するための看護過程の展開方法が理解できる。
5. 対象が必要とする、生活援助技術を原理・原則に基づいて実践できる。
6. チーム医療の一員として他職種との連携・協働の必要性がわかる。
7. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動ができる。
8. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる。

### 実習施設・時期

教育科目	単位 ・ 時間		実習時期	実習施設
基礎看護学実習Ⅰ	1 単位	I a 15 時間	1 年次前期(5 日間)	クラーク病院
		I b 30 時間	1 年次後期(5 日間)	
基礎看護学実習Ⅱ	2 単位	90 時間	2 年次前期(3 週間)	

基礎看護学実習 日程表

<基礎看護学実習Ⅰ 1単位 45時間> 実習時間： 9：00～15：00

I a (15時間) オリエンテーション2時間

2021年9月6日(月)～9月10日(金) 病棟10時間 外来1.5時間 中央材料室1.5時間

1週目							
月日	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10		
曜日	月	火	水	木	金		
時間	2	6.5		6.5		15	
実習施設 学生数	病院施設 オリエンテ ーション 40名	病棟20名 A	病棟20名 A	中材10名A2 外来10名A2	外来10名A1 中材10名A2		
		中材10名B1 外来10名B2	外来10名B1 中材10名B2	病棟20名 B	病棟20名 B		
		クラーク病院 40名					

I b (30時間) 実習時間： 9：00～16：00

1G：2022年2月7日(月)～2月10日・18日(金)

1週目							
月日	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/18	
曜日	月	火	水	木	金	金	
時間	6	6	6	6		6	
実習施設・学生数	クラーク病院 20名				建国記念日	学内学習	30

2G：2月14日(月)～2月18日(金)

2週目						
月日	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	
曜日	月	火	水	木	金	
時間	6	6	6	6	6	
実習施設・学生数	クラーク病院 20名				学内学習	30

<基礎看護学実習Ⅱ 2単位 90時間> 実習時間： 9：00～16：00

2022年5月10日(月)～5月28日(金)

1週目					2週目					3週目						
月日	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	
曜日	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
時間	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
実習施設・学生数	クラーク病院 40名					クラーク病院 40名					クラーク病院 40名					90

基礎看護学実習 I a

実習目的

病院施設の概要、看護の対象の入院環境と療養生活を理解する。

実習目標

1. 病院・各部署の概要がわかる。
2. 入院の生活環境がわかる。
3. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる。
4. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる。
5. 中央材料室の見学を通し感染源対策など、既習した内容を深めることができる。
6. 看護者としての姿勢態度を身につけることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 病院・各部署の概要がわかる	<p>1)病院の機能と役割を知る</p> <p>2)看護活動の場と他職種の役割を知る</p> <p>3)病院内環境の特徴や工夫がわかる</p>	<p>(1)病院オリエンテーション</p> <p>①理念・組織・病院の特色について説明を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の沿革・基本理念、診療機能の特色、病院組織</li> <li>・利用者状況（利用者数、在院日数、年齢、利用目的等）</li> <li>・看護部理念・看護部目標 看護部組織、看護体制 安全対策(感染・事故防止等)</li> <li>・地域連携、介護福祉部門連携</li> </ul> <p>②病院各部門の特徴と機能の説明を受け見学する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来診療、手術室、検査部、放射線部、リハビリテーション部 栄養部</li> <li>・医事課、医療相談、地域連携室、訪問看護ステーション</li> </ul> <p>③看護活動(外来見学をする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来看護の特徴や実際の看護活動の内容の説明を受ける</li> <li>・外来を受診する対象の健康レベルを観察する</li> </ul> <p>④病院内の構造設備と特徴を見学する</p>	<p>a.病院オリエンテーションを受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護活動の場の理解</li> <li>・病院の構造・設備、機能と役割を理解する</li> <li>・看護の役割・機能、看護活動の概要を理解する</li> </ul> <p>b.看護師と共に働くさまざまな職種（チーム医療に携る構成員）を確認、各部署から役割について説明を受ける</p> <p>c.医療チームとして看護師は他の職種と連携・協働していることを学習する</p> <p>d.地域における看護の場を調べる</p> <p>e 外来における看護サービスを調べておく</p> <p>f.利用者にわかりやすい表示や工夫、構造設備について見学し確認する</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
2. 入院の生活環境がわかる	<p>1) 対象の療養環境を知る</p> <p>2) 病室・病床の環境を調整できる</p> <p>3) ベッド周囲の環境整備と病床を整えることができる</p>	<p>(1)対象の病床環境を見学しそれぞれの環境の整え方と病室環境の調整を考える</p> <p>①病床環境を下記の場面から見学 食事環境、排泄環境、睡眠・休息環境、転倒転落防止のための環境</p> <p>②見学して下記の環境は満たされていたか、または調整が必要かを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの保護、個室、多床室の違い、音、臭気、採光、室温湿度、病室の空間、ベッドの高さ、柵の設置、床、廊下、トイレ、浴室、コミュニケーションの場</li> </ul> <p>(2) 環境調整技術の援助の実施</p> <p>①観察した結果、室内の温度・湿度、空気、採光、騒音、プライバシーの調整を行う</p> <p>②対象のベッド周囲・床頭台の整理整頓を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象に了解・了承を得る</li> <li>・必要物品の準備</li> <li>・実施 後片付けまで実施する</li> <li>・終了後は対象・看護師に終了したことを報告する</li> </ul> <p>③実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドメイキング（オープンベッド作成）を行う</li> <li>・塵・埃の除去</li> <li>・ナースコールの位置</li> <li>・ベッド柵の位置</li> <li>・私物の置き場所の確認(ティッシュペーパー、湯のみなど)</li> </ul>	<p>a.対象の基本的ニード充足のための各環境を見学し下記の視点から考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境調整技術の基礎知識</li> <li>・人間と環境の概念を確認</li> <li>・療養生活と環境</li> <li>・生活環境の調整</li> </ul> <p>b.既習の知識を使い実際の病室環境を見学する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病室・病床の選択、室温湿度、光と音、色彩、空気の清浄性とにおいて、人的環境</li> </ul> <p>c.見学の結果、環境調整技術援助の実際を下記の視点から実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全であるか</li> <li>・清潔であるか</li> <li>・物品は十分で適切か</li> </ul> <p>d.ベッドメイキングの実施手順と留意点を確認しペア学生で実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病床で包布カバーの実施体験(学内では行っていないので、指導を受け実施)</li> </ul>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
3. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる	1) どのような看護を提供しているかを知る	<p>(1) 病棟オリエンテーション</p> <p>① 看護体制・看護方式・看護記録・報告、病床数・入院対象の特徴 病棟の構造設備</p> <p>(2) 日常生活援助・診療の援助の実際を見学</p> <p>① 療養上の世話 ・食事、排泄、移動・移送、睡眠・休息、清潔援助の場面を見学</p> <p>② 診療の援助 ・与薬(内服・注射法)、バイタルサイン測定、包帯交換、回診の見学、検査の看護(採血など)</p> <p>(3) 標準予防策(スタンダードプリコーション)</p> <p>① 手指衛生の実施 ・一処置一手洗いを実践</p> <p>② 医療廃棄物の処理法の実際 ・感染性廃棄物の分別・表示の把握</p>	<p>a. 看護の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の対象を知る</li> <li>・看護の働きかけの内容を確認する(生活の中で営まれるケア、健康回復増進、疾病の予防)</li> <li>・働きかけの仕方(独自にまたは他職種と協働)</li> <li>・活動の場</li> <li>・社会的役割と保健師助産師看護師法より看護師の業務の定め「看護師とは」</li> </ul> <p>b. 看護活動の実際がわかるように看護場面に同行し看護援助を見学する(行動観察)</p> <p>c. 標準予防策の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指衛生の方法の実際</li> <li>・廃棄物の性状に応じたバイオハザードマーク(分別・表示)に基づいた処理方法</li> </ul>
4. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる	<p>1) 対象とのコミュニケーションの必要性がわかる</p> <p>2) コミュニケーションを図るための基本行動がとれる</p>	<p>(1) 対象と看護師がコミュニケーションをとっている場面を見学する</p> <p>① 接近的コミュニケーション</p> <p>② 話の聴き方</p> <p>③ オープンエンドクエスチョン クローズドクエスチョン</p> <p>④ 何について会話を図っていたのかがわかる</p> <p>(2) 対象とコミュニケーションを図るための基本行動</p> <p>① 自己紹介、外見・身だしなみ、表情、視線、相手との距離・身体の向き、姿勢・動作、ジェスチャー、テリトリー、におい、声量・声のトーン、対象の状況の確認、説明方法(了解や了承の取り方)</p> <p>② コミュニケーションの基本技術を使いながら対象と会話をする</p>	<p>a. 看護の対象である人とは・看護とはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要概念の学習から人間環境、健康、看護、学習・教育の主要概念を確認</li> </ul> <p>b. 関係構築のためのコミュニケーションの基本を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接近的・非接近的行動</li> </ul> <p>c. 対象との会話の内容から学習すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の対象は生活者であることを確認する</li> <li>・個人の価値観・人の尊厳</li> </ul> <p>d. 対象との会話の内容を学生から指導者に伝える</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院前（普段の生活）と入院生活や環境の違いを対象と会話しながら確認する</li> <li>（食事内容や時間・就寝・起床時間、睡眠時間・活動範囲など）</li> </ul>	
5. 中央材料室の見学を通し感染源対策など、既習した内容を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)洗淨・滅菌・消毒の目的・種類とその方法がわかる</li> <li>2)安全性・合理性・経済性を考えた仕組みや工夫がわかる</li> <li>3)病棟と中央材料室の連携がわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)各種洗淨消毒法と滅菌法の操作技術の説明を受け見学する</li> <li>(2)ガラス器具、ゴム、チューブ製品、衛生材料の洗淨法と保管場所・期間の説明を受け見学する</li> <li>(3)中央材料室と病棟との連携方法の説明を受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a.標準予防策(スタンダードプリコーション)の考え方を学習</li> <li>b.対策の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的な手洗い方法を確認</li> <li>・洗淨・消毒・滅菌の基礎知識</li> <li>・病棟との連携は、説明を受け内容を整理する</li> </ul> </li> </ul>
6. 看護者としての姿勢態度を身につけることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)看護学生としての責任を自覚した行動がとれる</li> <li>2)看護学を学ぶ動機を明確にすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)姿勢・態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>①対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない</li> <li>②その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができる</li> <li>③決められた時間・約束・規則を守ることができる</li> <li>④グループメンバーと協力した行動がとれる</li> <li>⑤不明な点は質問し確認することができる</li> <li>⑥相手の指導助言を素直に聞くことができる</li> </ul> </li> <li>(2)看護師インタビュー <ul style="list-style-type: none"> <li>①実習での学び・気づきなど感じたことを伝える</li> <li>②事前準備した質問からインタビュー開始（看護の魅力を探る。看護の特徴や役割について考える）</li> </ul> </li> <li>(3)今後の自己の学習課題を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a.学生の倫理要領に沿った行動をとる <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や家族、同室者、病院スタッフに挨拶</li> <li>・言葉遣い、身だしなみ</li> <li>・自己の健康管理</li> <li>・記録の提出期限・集合時間を守る</li> <li>・守秘義務・個人情報保護における規範行動の理解</li> <li>・学生間での協力協調の取り方</li> <li>・不明な点をそのままにして行動しない</li> <li>・実習の学び・気づきや考え、感じたことを自分の言葉で述べる。</li> <li>・看護学を学ぶ上で確認しておきたい事柄を準備して、質問する</li> <li>・リフレクションシートを活用して実習での学び・自己の学習課題を考える</li> </ul> </li> </ul>

## 実習方法

### 1. 対象の選定

- 1) 言語的コミュニケーションが可能である。
- 2) 日常生活の援助が見学できる（他対象でも可能）。
- 3) 病状が安定している。

### 2. 見学実習場所

- 1) 病棟、外来、手術室・中央材料室、検査部、放射線部、リハビリテーション部、栄養部  
医事課、医療相談室、地域連携室、訪問看護ステーション

### 3. 実習日程と配置

実習1日目	病院施設オリエンテーション（全員）	
実習2日目	A 学生20名 病棟実習1日目 (1～5階病棟) 4名×5セクション	B1 学生10名 中央材料室実習
		B2 学生10名 外来他部門見学
実習3日目	A 学生20名 病棟実習2日目 (1～5階病棟) 4名×5セクション	B2 学生10名 中央材料室実習
		B1 学生10名 外来他部門見学
実習4日目	A1 学生10名 中央材料室実習	B 学生20名 病棟実習1日目 (1～5階病棟) 4名×5セクション
	A2 学生10名 外来他部門見学	
実習5日目	A2 学生10名 中央材料室実習	B 学生22名 病棟実習2日目 (1～5階病棟) 4名×5セクション
	A1 学生10名 外来他部門見学	

### 4. 実習の進め方

	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習全体オリエンテーション</li> <li>2. 基礎看護学実習I aオリエンテーション</li> <li>3. 使用する実習施設の概要説明 集合時間・場所の確認</li> <li>4. 実習準備学習の確認               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の概念(人間・健康・環境・看護)を学習する</li> <li>2) 病院の機能と役割について</li> <li>3) 病院で働く専門職の職種とその機能と役割について</li> <li>4) 病室環境のアセスメント・技術練習(環境整備・ベッドメイキング)</li> <li>5) インタビュー質問内容の検討準備</li> </ol> </li> </ol>	<p>臨地実習要綱を持参する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に学生心得について把握しておく</li> <li>基礎看護学実習要綱を持参する</li> <li>・実習の目的目標・行動目標・実習内容を把握</li> <li>・実習での持ち物の確認(指定ユニフォーム ナースシューズ、筆記用具、メモ帳、臨地 実習要綱・基礎看護学実習要綱、行動計画表、 技術経験録、自己評価表、出席簿)</li> <li>・行動計画表を立案し担当教員の指導を受け清書する(病院オリエンテーション、外来他部門 実習、中央材料室実習)</li> </ul>	<p>様式1-1</p> <p>実習開始の前週で提出し指導を受ける</p>

	行動予定	学習内容	実習記録
実習初日	<p>9:00~11:00</p> <p>1. 病院オリエンテーション</p> <p>1) 病院の沿革や特色、診療機能の特色</p> <p>2) 看護部理念・看護目標 看護部組織、看護体制、安全対策</p> <p>3) 地域連携、介護福祉部門連携</p> <p>4) 病院組織と各部署の役割と連携</p> <p>5) 施設使用上の注意</p> <p>6) 実習生として注意事項</p> <p>2. 病院各部門の見学 管理棟 訪問看護ステーション</p> <p>1F 医事課・総合受付→X線・CT・MRI 検査室→臨床検査室・心電図・エコー室→外来診察室・処置室</p> <p>2F 物理療法室→薬局→栄養管理室→売店→中央材料室（手術室）</p> <p>3F 医療相談室、地域連携室 リハビリテーション部（理学・作業・言語療法室）</p> <p>1病棟→2病棟→3病棟→4病棟→5病棟</p> <p>3. 院内の構造設備および特徴を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室で着替え、身だしなみを整え指定場所に集合する</li> <li>・病院オリエンテーションを受ける 基礎看護学実習要綱 実習内容参照</li> <li>・行動計画表の実施計画に沿ってオリエンテーション内容の学びをまとめる（様式1-1）</li> <li>・看護師と共に働くさまざまな職種（チーム医療に携る構成員）について紹介を受け、各担当部署から役割について説明を受ける</li> <li>・医療チームとして看護師は他の部署や職種と連携・協働していることについて説明を受ける</li> <li>・利用者にわかりやすい表示や工夫、構造設備について説明を受ける</li> </ul>	様式 1-1
病棟実習1日目	<p>9:00~14:00</p> <p>1. 配置された病棟へ挨拶 行動計画発表</p> <p>2. 病棟オリエンテーション</p> <p>1) 病棟の構造設備、特殊性</p> <p>2) 入院対象の特徴</p> <p>3) 看護方針・看護体制、記録物の種類</p> <p>4) 看護基準・看護手順</p> <p>5) 月間、週間、日課</p> <p>6) 物品や備品、薬品の保管場所</p> <p>7) 医療廃棄物の処理方法</p> <p>3. 病棟内見学・入院患者へ挨拶</p> <p>4. 看護活動の場面に同行して、看護援助の実際を見学（行動観察）</p> <p>1) 療養上の世話</p> <p>(1) 食事準備、配膳、食事介助、下膳</p> <p>(2) 排泄の介助</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごと揃って各病棟へ出向く 病棟スタッフへ挨拶(代表者)</li> <li>・左記の内容でオリエンテーションを受ける</li> <li>・廃棄物性状に応じたバイオハザードマーク（分別・表示）に基づいた処理方法の説明を聞く</li> <li>・各病室を回り、実習に来ていることを伝えながら挨拶する</li> <li>・対象に行われている看護を見学する</li> <li>・対象の対応場面、コミュニケーションの場面を見学する</li> <li>・看護技術の提供：診療の補助、日常生活援助 教育的支援活動の場面を見学する</li> </ul>	様式 1-1

	行動予定	学習内容	実習記録
	(3) 移動・移送 (4) 清潔援助 (5) 睡眠や休息の環境を整える 2) 診療の補助 (1) バイタルサイン測定 (2) 与薬 (内服・注射法) (3) 包帯交換、創傷処置 (4) 検査の説明 など 5. 病棟内・病室見学し療養の環境を見学 個室、多床室、デイルーム、浴室、トイレ、洗面所、廊下、ナースステーション 14:00～15:00 学生カンファレンス ・本日の実習の振り返り ・2日目の実習内容確認	看護として提供していた内容を確認する ・医師と協働している場面や他職種と情報交換する場面などを見学する ・入院生活の環境や療養生活の実際を見学する ・療養環境：自宅の生活と入院生活の違いを自分の目で確認できたことを整理する ・司会進行は学生が行う。開始時を伝えカンファレンス場所を学生は確認する	
病棟実習2日目	9:00～14:00 行動計画発表 1. 病室・病床の環境を調整する 1) 個室・多床室の違い (構造設備基準) (1) 病室の空間、プライバシーの調整 2) 音、臭気、採光、室温・湿度 (1) 病室の室温・湿度測定 (2) 病室枕元で騒音計測 (3) 病室枕元で採光計測 3) 転倒転落防止 (1) ベッドの高さ、ベッド柵の設置 (2) 床、廊下、トイレ、浴室 4) その他 (1) 食事の環境 (2) 排泄の環境 (3) 睡眠・休息環境 (4) 憩いの場 2. ベッド周囲の環境整備と病床を整える 1) ベッドメイキング (1) 療養者が使用しているベッドのシーツ交換	・グループごと揃って各病棟へ出向く 病棟スタッフへ挨拶(代表者) 1. 病室・病床の環境を調整する ・個室・多床室の両方を見学する ・メジャー5ヶ、騒音計2台、照度計2台は学校から持参したものを使用する (スケジュール表参照) ・環境調整の必要性を確認する ・一般家庭環境と病床環境の違いを確認する 2. ベッド周囲の環境整備と病床を整える 1) ベッドメイキング ・対象に説明し了解を得る ・必要物品を使用順に上からワゴンに準備する	

	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習2日目	<p>①対象に説明と同意を得る</p> <p>②必要物品をワゴンに準備</p> <p>③病床に置いてある私物類の移動</p> <p>④塵・埃を散らさないようリネン類の除去</p> <p>⑤ベッドメイキング 学生 2 人ペアで実施ベッド右側主となり左右交互に作成する（毛布は足元角、四角折り込みはしない）</p> <p>2) 環境整備</p> <p>(1) 対象のベッド周囲、床頭台、オーバーテーブルの整理整頓</p> <p>①必要物品の準備 ・バケツ、上拭き雑巾、ゴミ袋、粘着クリーナー、プラスチックグローブ</p> <p>②対象に了解了承を得る</p> <p>③私物の移動は、対象に確認してから動かす</p> <p>④実施</p> <p>⑤後片付け</p> <p>⑥終了したことを対象に報告</p> <p>3. コミュニケーション</p> <p>1) コミュニケーションを図るための基本行動をとる</p> <p>(1) 訪問する前に事前に対象の情報を得る</p> <p>(2) 対象の了解了承を得る</p> <p>(3) 話をする場所、座る位置の確認</p> <p>(4) 学生自己紹介</p> <p>(5) 対象と会話する ・入院前（普段の生活）と入院生活の違いを対象と会話しながら確認する 例えば 食事内容・食事時間 就寝起床時間、睡眠時間 活動範囲や活動内容</p> <p>(6) 対象の疲労度や様子を確認し、礼を伝え終了とする（30分程度）</p>	<p>・除去したリネンは直接ランドリーボックスに入れる（抱え込まない）、又はビニール袋に入れてワゴンの下に置く</p> <p>・学生二人ペアになり主と副で実施する ただし抱布カバーは指導者または教員の指導の下体験する</p> <p>2) 環境整備</p> <p>・事前に対象に説明し了解を得ておく</p> <p>・ベッドメイキングした病室を含め、環境整備 2 部屋程度実施する</p> <p>・必要物品の確認</p> <p>・実施手順の確認をしてから実施する</p> <p>・対象と指導者に終了を伝える</p> <p>3. コミュニケーション</p> <p>・コミュニケーションをとる対象の情報を指導者から説明をうける</p> <p>・看護師のコミュニケーションの学びから、コミュニケーションの基本技術を使い会話を図る</p> <p>・コミュニケーションをとる場所・座る位置の設定をする</p> <p>・話し始めのきっかけ作り、雰囲気作りをする</p> <p>・対象の疲労度も考え、30分程度で終了する</p> <p>・入院前と現在入院生活とを比較し、生活の違いを会話から把握する</p> <p>・終了後どのような情報を得られたか会話の内容を指導者に報告する</p> <p>・守秘義務：知り得た対象に関する情報は、決して口外しない</p>	様式 1-1

	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習 2日目	14:00～15:00 4. 看護学を学ぶ動機を明確にする 1) 学生カンファレンス 実習での学び、気づきなど感じたことを発表する（一人2分程度） 2) 看護師インタビュー (1) 事前に準備した質問からインタビューを開始する (2) 先輩看護師の経験談や看護への思いを聞く（20分程度） 3) 病棟実習終了の挨拶	・実習を通して学んだことや気づきなど感じたことを発表する ・看護師へインタビュー開始 ・先輩看護師の経験談や看護への思いを聞く ・対象・病棟スタッフへ実習終了の挨拶をする	
外来実習	外来診療科オリエンテーション 1. 外来診療の流れ 2. 外来のスケジュール 3. 各診療科の特徴 4. 外来における看護業務 1) 診療の介助 2) 受診者への対応 3) 他部門・入院病棟との連携 5. 外来診療の場（診察室・処置室）の見学	・外来部門では、外来診察に来ている対象の健康障害の種類や健康レベルについて説明を受ける ・外来における看護の特徴について説明を受ける ・実際の診療場面・処置場面を見学する ・外来看護師がどのように受診者と関わっているか見学する ・受診者を観察する	様式 1-1
中央材料室実習	中央材料室の指示に従い、履物・マスク・キャップ・ガウンを着用し入室 ・手指衛生の実施 ・中央材料室内の説明を受け見学する ・看護師の役割について学習	・各種洗浄消毒法と滅菌法の操作技術の説明を受け見学する ・衛生材料の洗浄法と保管場所・期間の説明を受け見学する ・中央材料室と病棟との連携や方法の説明を受ける	様式 1-1
事後学習	行動計画表 実習自己評価表 基礎 I a リフレクションシート 技術経験録 自己学習ノート 臨地実習出席簿	リフレクションシートの記載 ・実習を振り返り、看護学を学ぶということ・看護の魅力・自己課題を明らかにする	実習全記録 自己評価表

## 5. 看護技術の経験

確実に実施◎ 実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	病床環境の整備・調整	実施	○	清拭・洗髪・手足浴	見学
◎	ベッドメイキング	実施	○	食事の準備 食事配膳・下膳	見学
◎	リネン交換	実施	○	車椅子・ストレッチャー移乗・移送	見学
◎	手指衛生	実施	○	移動(体位変換)	見学
○	医療廃棄物の処理方法	見学	○	排泄援助	見学

6. その他

- 1) 全過程で臨地実習指導者・担当教員の助言・指導を受けながら実習を進める。
- 2) 学生は2名1組で行動する。
- 3) 記録に関して
  - (1)行動計画表の実施計画の項目・目的は、学生ペアで共有する
  - (2)見学・実施後の記録は行動計画表の「見学・実施した内容・結果」に記載する
- 4) 評価に関して
  - (1)中間評価なし。
  - (2)基礎看護学実習 I a 評価 40点。
  - (3) I a 実習評価は学生自己評価・教員評価のみとする。

7. 実習記録用紙一覧

様式No	用紙名	スケジュール 提出期限
1-1	行動計画表	毎日朝
1-10	基礎 I a リフレクションシート	実習終了の翌週月曜日

\* 「見学・実施した内容・結果」は、行動計画表の実施計画の項目に沿って整理する

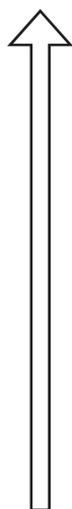
8. 実習記録・その他 提出時の綴り方

<クリアファイル>

- 1) 学生自己評価表 (原本)
  - 2) リフレクションシート (基礎 I a 用 様式 1-10) のコピー
  - 3) 臨地実習出席簿
  - 4) 看護技術経験録
- ※上から1)～4)の順番で提出する

<紙ファイル>

上(表紙) 【提出資料と順番】



- 1) リフレクションシート (基礎 I a 用 様式 1-10) 原本
  - 2) 学生自己評価表 (コピー)
- ..... ※ 1) 2) は、各々クリアブックに入れる .....
- 3) 行動計画表 (様式 1-1)
- 上から、
- 病棟実習 2日目・1日目
- 病院オリエンテーション
- 外来他部門実習
- 中央材料室実習 の順番に綴る
- 3) 環境調査ワークシート
  - 4) 自己学習ノート (クリアブックに入れる)

下

# 行 動 計 画 表

様式1-1 (基礎 I 実習)

月 日 曜日

学生氏名：

<本日の自己目標>			
時間	実施計画	見学・実施した内容・結果	見学・実施を通して 気付いたこと・わかったこと
<1日のまとめ・本日の自己目標の達成状況> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">                     指導者サイン：                      教員サイン：                 </div>			

リフレクションシート

様式 1-10

提出日 年 月 日 ( )

第 学年 番 氏名

実習『基礎看護学実習 I a』

1.看護活動の場や看護活動を見学して気付いたこと、わかったこと	2.病院・病棟・病床環境で気付いたこと、わかったこと
3.健康障害のある人とその生活で気付いたこと、わかったこと	4.病床の環境整備・ベッドメイキングについて、臨地実習と学内実習と比較し違いや学びを記述してください
5.対象とのコミュニケーションにおける看護師と自分の違い	6.看護に対する印象の変化や新たな発見を教えてください。
7.この実習を終えて、あなたの今後の課題は何ですか。その課題にどのように取り組んでいきますか。	

基礎看護学実習 I a 評価表 【 学生自己評価 】

		学籍番号		学生氏名					
実習施設	病院 病棟		実習期間	令和 年 月 日～ 月 日					
分類	No	評価項目			最終	割合			
看護活動の場と環境の理解	<b>I. 病院・各部署の概要がわかる</b>					40% 得点 /16			
	棟病 院の 概・ 要病	1	病院の機能と役割を知る						
		2	看護活動の場と他職種の役割を知る						
		3	病院内環境の特徴や工夫がわかる						
	<b>II. 入院の生活環境がわかる</b>								
	療養 の理 環境	4	対象の療養環境を知る						
5		病室・病床の環境を調整できる							
6		ベッド周囲の環境整備と病床を整えることができる							
看護活動の実際	<b>III. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる</b>					35% 得点 /14			
	看護 役割	7	どのような看護を提供しているかを知る						
		<b>IV. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる</b>							
	ニコ ケミ ュー	8	対象とのコミュニケーションの必要性がわかる						
		9	コミュニケーションを図るための基本行動がとれる						
	<b>V. 中央材料室の見学を通して感染源対策など、既習した内容を深めることができる</b>								
	中央 役材 割料 室	10	洗浄・消毒・滅菌の目的・種類とその方法がわかる						
		11	安全性・合理性・経済性を考えた仕組みや工夫がわかる						
		12	病棟と中央材料室の連携がわかる						
	実習 組の 取り 組み	<b>VI. 看護者としての姿勢態度を身につけることができる</b>					25% 得点 /10		
		責任 行動 あ	13	看護学生としての責任を自覚した行動がとれる					
			14	看護学を学ぶ動機を明確にすることができる					
【評価基準】					評価点	／ 40 点			
5：できる(助言をほとんど必要とせずにできる) 4：だいたいできる(助言をすればできる)					時間数	／ 15			
3：努力を要す(繰り返し助言をすればできる) 2：助言してもできないことが多い									
0：助言してもできない									
自己評価									

基礎看護学実習 I a 評価ガイダンス

	評価項目	評価内容	評価基準
病院・病棟の概要	I. 病院・各部署の概要がわかる	1. 病院の機能と役割を知る	1) 病院・看護部の特色がわかり内容の記述ができている 2) 病棟の特色と看護体制がわかり内容の記述ができている
		2. 看護活動の場と他職種の種類を知る	1) チーム医療に携る構成員とその役割を記述できている 2) 外来を見学し、受診対象の健康レベルを述べることができている 3) 地域における看護活動の場があることが理解できたことを表現している
		3. 病院内環境の特徴や工夫がわかる	1) 病院・病棟の構造、設備と特徴が理解できたことを表現している
療養環境の理解	II. 入院の生活環境がわかる	4. 対象の療養環境を知る	1) 療養生活とその環境で見学できた内容を記述できている 2) 普段の生活と入院の生活環境の違いを記述できている 3) 基本的ニード充足のための環境を考え理解したことを記述できている
		5. 病室・病床の環境を調整できる	1) 病室内の温度・湿度、光・音、色彩、空気の清浄性とにおいて、プライバシーの観察ができ調整の必要性を考え実施できている
		6. ベッド周囲の環境整備と病床を整えることができる	1) 対象の安全や清潔を考えベッド周囲、床頭台の整理整頓ができている 2) ベッドメイキングは、しわのないくずれにくいベッドを作成できている
看護の機能と役割	III. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる	7. どのような看護を提供しているかを知る	1) 入院対象の特徴が述べられている 2) 入院対象の一日の流れがわかり記述できている 3) 看護師に同行し、どのような看護を提供していたか、確認できたことを記述している
コミュニケーション	IV. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる	8. 対象とのコミュニケーションの必要性がわかる	1) 看護師が対象と行うコミュニケーションはどのような場面で行われていたか、わかったことを記述できている 2) 対象とコミュニケーションが何故必要なのか気付いたことを記述できている
		9. コミュニケーションを図るための基本行動がとれる	1) 対象へ挨拶をして、了解を得ることができている 2) 身だしなみ、表情、視線、言葉遣い、声量、声のトーンなどに気をつけ会話ができています
中央材料室の役割	V. 中央材料室の見学を通し感染源対策など、既習の内容を深めることができる	10. 洗浄・消毒・滅菌の目的・種類とその方法がわかる	1) 中央材料室における消毒・滅菌の目的・方法と特徴について整理したことを表現できている
		11. 安全性・合理性・経済性を考えた仕組みや工夫がわかる	1) インジケータの種類と使用方法について理解したことを表現できている 2) 滅菌物の保管・管理方法について理解したことを表現できている 3) 機械洗浄の実際や、中央一括処理の合理性・経済性を理解したことを表現できている

	評価項目	評価内容	評価基準
		12. 病棟と中央材料室の連携がわかる	1) 病棟と中央材料室の連携の実際と、滅菌物の流れを理解したことを表現できている
責任ある行動	VI. 看護師としての姿勢態度を身につけることができる	13. 看護学生としての責任を自覚した行動がとれる	1) 知り得た情報を外部に漏らさない 2) その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いできている 3) 決められた時間・約束・規則を守ることができている 4) 実習メンバーと協力・協調した行動がとれている 5) 相手の指導助言を素直に聴くことができている
		14. 看護学を学ぶ動機を明確にすることができる	1) 看護師インタビューにより看護への気づきを得られている 2) リフレクションシートを活用し実習の学び・自己の課題を明らかにできている

実習目的

日常生活行動の制限や健康障害のある対象の療養環境を考え、日常生活援助の必要性がわかる

実習目標

1. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる。
2. 対象に関心に向け、コミュニケーションを図ることができる。
3. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる。
4. スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる。
5. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる。
6. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる。
7. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる	1) 対象の生活背景がわかる	<p>(1) 受け持ち対象の紹介</p> <p>① 対象の情報について指導者より説明を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち対象の疾患名、治療方針、禁忌事項、症状、日常生活動作、看護課題、看護目標、看護計画について説明を受ける</li> </ul> <p>(2) 情報収集の方法</p> <p>① 診療録・看護記録の見方と必要な情報の取り方</p> <p>② 知りたい情報を観察やコミュニケーションから得る方法</p> <p>(3) 入院前の健康状態</p> <p>① 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的側面：身長・体重など</li> <li>・心理・社会的側面：家族構成、職業、生活環境など</li> <li>・認知的側面：学習機能や認知度など</li> <li>・一日の生活様式(入院前・後)</li> </ul>	<p>a. 対象のオリエンテーションを受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち対象について病態と、その経過や治療、自立度、注意事項について説明を受ける</li> <li>・レントゲン画像などを使用し、必要時説明を受ける</li> <li>・出現している症状と治療の関係性がわかるように調べる</li> <li>・対象の看護の方向性と看護計画について説明を受ける</li> </ul> <p>b. 診療録、検査データ、看護記録の見方・情報の取り方の指導を受ける</p> <p>c. コミュニケーションを通して必要な情報を対象から情報収集する</p> <p>d. ヘンダーソンのアセスメントガイドを用いて情報を整理する</p> <p>e. 発達段階の身体的・精神的社会的特徴と発達課題を学習する</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>2) 病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる</p> <p>3) 対象の入院生活行動の情報を得ることができる</p> <p>4) 基本的ニーズが満たされているかがわかる</p>	<p>(4) 病気・治療の経過・状況</p> <p>① 基本的欲求を変容させる病理的状态の情報を分類・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診断名、現病歴、既往歴、</li> <li>・ 症状・検査データ・バイタルサイン</li> <li>・ 治療方針・治療内容</li> </ul> <p>(5) 基本的欲求の充足状態</p> <p>① 基本的欲求に関する主観的情報 S / 客観的情報 O を以下 5 項目について収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食</li> <li>・ 排泄</li> <li>・ 活動・姿勢</li> <li>・ 休息・睡眠</li> <li>・ 衣類・清潔</li> </ul> <p>② 「体力」「意思力」「知識」の枠組みに収集した情報を分類する</p> <p>③ 対象の現在の基本的欲求の状態を健康時の状態や標準・平均値、正常値、日常性と比較し充足・未充足の判断をする</p>	<p>f. 健康レベルにおける身体的・精神的・社会的特徴を学習する</p> <p>g. 受け持ち対象の情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションによる意図的情報収集</li> <li>・ 記録物からの情報収集</li> <li>・ 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、生活背景の把握</li> <li>・ 基本的欲求を変容させる病理的状态</li> <li>解剖生理・病態生理・治療症状に伴う看護</li> </ul> <p>h. 病気や治療が、日常生活にどのように影響しているか考えてみる</p> <p>i. 基本的欲求に関する情報「体力」「意思力」「知識」に分類して整理</p> <p>j. ヘンダーソンが述べているニーズが充足している状態を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象の普段の生活(入院前)と入院生活を比較してみる</li> </ul>
2. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる	1) 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	<p>(1) コミュニケーションを図る</p> <p>① 適切な言葉遣いや会話の内容を選択する</p> <p>② 相手から聞きたい内容の目的を持ち対象と会話ができる</p> <p>③ 対象に関心を向け、傾聴する姿勢をもち、ありのまま話の内容を受け止める</p> <p>④ 対象の状況(健康状態・検査処置・面会者など)や日課・生活リズムを考えコミュニケーションの場、雰囲気作り、時間の工夫をする</p>	<p>a. 関係構築のためのコミュニケーションの基本を復習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接近的・非接近的行動</li> <li>・ 言語的・非言語的コミュニケーション</li> </ul> <p>b. 場や時間の工夫</p> <p>c. 共感的態度・傾聴</p> <p>d. 他者への関心</p> <p>e. 状況や状態の把握と判断</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>2) 対象が病気や治療、入院生活に対して感じていることがわかる</p> <p>3) 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる</p>	<p>2) 入院生活や病気・治療に関する対象の精神面への影響を考える</p> <p>① 対象との会話・表情・態度・行動を観察する</p> <p>② 対象の話す内容を受け止め入院生活や病気、治療に対する思いを知る</p> <p>③ 対象の価値観があることを感じ取る</p> <p>(3) 思いやる行動がとれる</p> <p>① 対象の反応を捉え自己の行動を調整する</p> <p>② 説明と同意の確認</p> <p>③ 了解了承を得てから看護援助の実施をする</p> <p>④ プライバシーに配慮した行動をとる</p> <p>⑤ 対象を尊重した態度で接する</p>	<p>a. 対象の思いに触れその意味を考えてみる</p> <p>b. 他者と自分の価値観の違いを知る</p> <p>a. 対象の価値観の尊重</p> <p>b. ねぎらいの言葉掛け</p> <p>c. 対応が困難な時、判断がつかない時は、指導者・教員へ相談し迅速な対応を図る</p> <p>d. プライバシーへの配慮</p>
3. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる	<p>1) バイタルサインの測定ができる</p> <p>2) 測定値からアセスメントができる</p> <p>3) 対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整</p>	<p>(1) 日常生活の援助の実際を看護師について次の場面に参加する</p> <p>① バイタルサイン測定と観察(変動因子の確認と随伴症状の有無を観察)</p> <p>体温の測定と随伴症状 脈拍・呼吸測定と随伴症状 血圧測定と随伴症状</p> <p>② 正常異常の判断(基準値、日常性と比較し判断する)</p> <p>③ 測定値と観察からアセスメントし看護援助を実施してよいか、中止すべきかの判断をする</p> <p>(1) 対象の病室・病床環境を観察し環境の整え方・調整を考える</p> <p>・安全であるか</p> <p>・対象の現状にあっているか</p>	<p>a. 対象の看護計画を見て、援助内容を確認する。情報収集で未充足と判断した基本的ニーズに看護援助がどのように実施されていたか確認</p> <p>b. 生活と看護が深く結びついていることを理解する</p> <p>c. 血圧測定が正確に測れているか二股聴診器を用い測定する</p> <p>d. バイタルサイン・観察により異常の判断、日常性と比較し看護援助を実施してよいかの判断とその根拠を考える</p> <p>e. 食事・排泄・清潔・休息を行うときの環境の整え方と援助方法</p> <p>f. 援助技術は科学的根拠に基づき原理原則に沿って実施して</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>備ができる</p> <p>4)看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔であるか</li> <li>・物品は十分で適切か</li> <li>①病室・病床環境を観察</li> <li>・食事環境、排泄環境、睡眠・休息環境、転倒転落防止のための環境になっているかアセスメントする</li> <li>②環境は満たされていたか、調整が必要かをアセスメントする</li> <li>・プライバシーの保護、個室、多床室の違い、音、臭気、採光、室温湿度、病室の空間、ベッドの高さ、柵の設置、床、コミュニケーションの場</li> <li>(2)観察した結果、環境調整技術の援助の実施</li> <li>・実施前、対象への説明と同意</li> <li>・必要物品の準備、後片付け</li> <li>・終了したことを対象・指導者に報告</li> <li>①対象のベッド周囲・床頭台の整理整頓を行う</li> <li>・ベッドメイキング</li> <li>・埃・塵の除去</li> <li>・ナースコールの位置</li> <li>・ベッド柵の位置</li> <li>・私物の置き場所の確認(ティッシュペーパー、湯のみなど)</li> <li>②対象の病室環境を調整する</li> <li>・食事、排泄、睡眠休息環境</li> <li>(3)対象の一日の過ごし方</li> <li>①日常生活動作の自立度</li> <li>②健康障害・健康レベルから日常生活(食事・排泄・活動・清潔保持)の状態把握</li> <li>(4)日常生活援助の実施</li> <li>①食事、排泄、清潔、移動移送などの場面で看護師と一緒に</li> </ul>	<p>いることの確認</p> <p>g.日常生活援助(食事・排泄・清潔・移動移送)の援助方法・手順の確認</p> <p>根拠と留意点を把握</p> <p>h.日常生活の自立度に応じた援助方法の検討</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		準備・実施・後片付けまで援助に参加する ・必要物品の準備 ・手順・根拠・留意点を確認してから実施 ・後片付け ②看護師の実践している看護が何のために行われているのか考える ③対象の安全・安楽と自立に応じた援助方法であることを確認する	
4.スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる	1)感染予防のための行動がとれる  2)医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	(1)感染予防行動 ①一処置一手洗いの実施 ②手指衛生 ③便・尿・血液の付着したものの取り扱い (2)個人防護用具 ①手袋・エプロン・マスクの着用方法と外し方 (3)医療廃棄物の分別方法 (4)感染性廃棄物のバイオハザードマークに基づいた処理(分別)	a.スタンダードプリコーション b.手洗い・擦式消毒 c.リネン汚染(便・尿・血液) d.病原菌による消毒薬の違い e.ディスポーザブル手袋、エプロン、マスクの着脱方法 f.感染性廃棄物の分別と表示 ・バイオハザードマーク ・感染性廃棄物の取り扱い時の注意点
5. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる	1)他の職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる  2)チームの一員として責任ある行動がとれる	(1)他職種との協働・連携場面に参加する ・病棟カンファレンスに参加している職種と内容の確認 ・リハビリカンファレンスに参加している職種と内容の確認 ・栄養指導 ・看護と介護の連携 日常生活行動を支援する看護介護の連携の説明を受け場面の観察をする (2)看護師の役割を考える (1)誰に、いつ、報告すべきかを判断し、時期を逃さずに報告する	a.他職種チームとしての情報共有と継続的な関わり b.看護師の役割を考える ・情報の共有 ・健康回復・維持するための支援 ・他職種間との調整役割  a.報告・連絡・相談 b.情報の共有 c.客観的・主観的情報

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		(2)自分で解決できない時、判断に迷う時は相談する (3)場にふさわしい挨拶・身だしなみ・言葉遣いをする (4)指導・助言を素直に聞く姿勢を示す (5) プライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない (6)実習メンバーと協力し学習を進める	d.守秘義務、プライバシーの保護 e.リーダーシップ・メンバーシップ f.規律・規範を守る ・挨拶、身だしなみ ・言葉遣い ・約束事を守る ・自己の健康管理 g.他者の意見を聴き入れ、自分の意見も伝える h.学生間の協力・協調 i.学生間の情報の共有
6.看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる	1) 自己の課題の解決、目標達成に向けて取り組むことができる  2) 継続して学習する姿勢を有している	(1)実習の目的・目標、実習方法を理解する (2)学生自己評価表を用いて適切に評価する (3)自己の課題を明らかにする (4)目標を定め、課題を解決する方法を示す (5)課題解決のための行動を示す (6)カンファレンスで自己の考えを述べる (7)自己の技術レベルを認識し積極的に技術練習を行う (1)学習の習慣化 (2)積み上げ学習 (3)看護職としての自己研鑽の必要性 (4)興味関心を示し主体的に学ぶ姿勢	a.既習の学習が看護の実践で活用されていることを確認 b.自己課題を持って学習に取り組む c.目標達成に向け指導者・教員へ自ら助言を求める d.文献・既習学習を活用し学習を深める e.仲間に助言を求める  a.自己の生活行動、学習行動の特徴や傾向を知る b.自己の傾向を認識し行動を変容させる c.変容した姿を他者にわかるように示す d.常に既習学習、学習ノート、文献の活用をする e.看護学生倫理要領の意味を理解する f.事前学習・事後学習に取り組む

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
7.看護体験を通して看護のあり方を考えることができる	1)実習での学びから、看護に対する自分の考えを述べることができる	(1)看護に対する自分の思い、考えを他者が聴いてわかるように述べる (2)相手の意見を聞き、自分と他者の違いを知り、自己の学びを発展させる (3)リフレクションを行い、根拠を示し看護に対する自己の考えを記述できる	a.看護の理論を参考に(ヘンダーソン) 実習の学びを通して「看護とは」を考え、自分の言葉で表現する b.看護の主要概念を確認する c.受け持ち対象を通して学べたことを整理する d.自己の課題を明確にする

## 実習方法

### 1. 対象の選定

- 1) 言語的コミュニケーションが可能である。
- 2) 日常生活の援助を必要とする。
- 3) 病状が安定しており、病態が複雑ではない。

### 2. 実習の進め方

分類	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習全体オリエンテーション</li> <li>2. 基礎看護学実習 I b オリエンテーション</li> <li>3. 実習施設の集合時間・場所の確認</li> <li>4. 実習準備学習の確認 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟の特徴、概要、病棟に多い対象の疾患について解剖生理の復習をする</li> <li>2) 実習・演習の援助計画書を確認し練習 <ol style="list-style-type: none"> <li>①バイタルサイン測定と身体診査</li> <li>②清拭と寝衣交換</li> <li>③体位変換</li> <li>④環境整備・ベッドメイキング</li> <li>⑤食事介助</li> </ol> </li> <li>3) 受け持ち対象の情報収集・コミュニケーションについて <ol style="list-style-type: none"> <li>①基本情報 (常在条件)</li> <li>②病理的状态</li> <li>③基本的看護の構成要素 14 項目</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5. 実習初日の行動計画書の立案</li> <li>6. 環境整備・ベッドメイキングの看護技術カードの記載</li> <li>7. カンファレンスの進行について</li> </ol>	<p>臨地実習要綱を持参する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に学生心得について把握しておく</li> </ul> <p>基礎看護学実習要綱を持参する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的目標・行動目標・実習内容を把握</li> <li>・実習での持ち物の確認(指定ユニフォーム ナースシューズ、筆記用具、メモ帳、臨地実習要綱・基礎看護学実習要綱、行動計画表 技術経験録、自己評価表、出席簿)</li> <li>病棟実習 1 日目の行動計画表、環境整備・ベッドメイキングの看護技術カードの指導を受ける</li> </ul> <p>※自己学習ノートの作成</p> <p>※基礎看護学実習 I a と同じ病棟で実習をすることを基本とする</p>	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2 (ベッドメイキング)</p> <p>実習開始の前週で提出する</p>

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習1日目	<p>9:00～15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟へ全員揃って挨拶 指導者紹介 行動計画の発表</li> <li>・病棟オリエンテーション</li> <li>・カルテの見方の説明を受ける 情報の取り方・見方、注意事項</li> <li>・対象紹介（事前に対象選定2名） どの学生がどの対象を受け持つのか指導者に報告する</li> <li>・対象へ挨拶し関係性を築く</li> <li>・食事の準備と配膳見学</li> <li>・記録類から情報収集</li> <li>・受け持ち対象とのコミュニケーション</li> </ul> <p>15:00～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生カンファレンス 本日の振り返りと翌日の行動調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室で着替え、身だしなみを整え、実習病棟に行き挨拶</li> <li>・I a 実習で説明を受けているが補足説明を受けながらのオリエンテーションで、不明な点は質問して確認する</li> <li>・対象情報の取り扱いに関する注意事項の説明を受ける</li> <li>・受け持ち対象の疾患名、治療方針、治療内容 禁忌事項の説明を受ける</li> <li>・カルテより必要な情報をとる</li> <li>・不明な点は、積極的に質問して確認する</li> <li>・自分から進んでコミュニケーションをとる</li> <li>・受け持ち対象の必要な情報が収集できたか確認する</li> <li>・受け持ち対象の受けている看護援助がわかるよう、病棟の看護方針・看護計画を確認する</li> </ul>	<p>様式1-1 看護目標 実施計画</p> <p>&lt;帰宅後&gt;</p> <p>様式1-1 実施内容・ 考察を記録</p> <p>様式1-3 翌日の様式 1-1 看護目標 実施計画 様式1-5</p>
病棟実習2日目	<p>9:00～15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟へ全員揃って挨拶</li> <li>・行動計画の発表 行動調整</li> <li>・情報収集</li> <li>・バイタルサイン測定と観察</li> <li>・環境整備の実施</li> <li>・昼食準備 配膳・下膳</li> <li>・実施前後に手指衛生の実施 スタンダードプリコーションの実施方法</li> <li>・受け持ち対象を担当する看護師とともにケアの見学・参加をする</li> <li>・ケア見学以外の時間で情報収集する</li> <li>・受け持ち対象とのコミュニケーション</li> <li>・実施見学した内容の指導者への報告</li> </ul> <p>15:00～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生カンファレンス 本日の振り返りと翌日の行動調整</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前日の情報から、対象の状況に合わせた行動計画を記載する <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護目標は対象の状況を考える</li> <li>・対象に行われている援助の目的を考える</li> </ul> </li> <li>2) 受け持ち対象に行われている看護援助を見学し対象に行われている援助について考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサインの測定、観察項目の確認</li> <li>・予定されている日常生活援助の内容</li> <li>・行われている治療や検査内容</li> </ul> </li> <li>3) 対象の療養環境について確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・療養環境の観察の視点</li> <li>・室温、湿度、臭気、明るさ</li> <li>・ベッド周囲の環境（清潔度、整理整頓）</li> <li>・リネン、寝衣の状況、プライバシーの確保</li> <li>・転倒・転落予防を考えた環境整備</li> </ul> </li> <li>4) ヘンダーソンのアセスメントガイドを基に情報を得ながら、随時様式1-5「体力」「意思力」「知識」で情報を整理していく</li> </ol>	<p>様式1-1 様式1-3 提出</p> <p>&lt;帰宅後&gt;</p> <p>様式1-1 実施内容・ 考察を記録</p> <p>翌日の 様式1-1 看護目標 実施計画 様式1-3 修 正・追加分 の記録 様式1-5</p>

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習3日目	<p>9:00～15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟へ全員揃って挨拶</li> <li>・行動計画の発表 行動調整</li> <li>・見学あるいは実施したいケアの内容を行動計画に基づいて発表する</li> <li>・ベッドメイキング、環境整備の実施</li> <li>・指導者または教員と共にケアを一緒に実施する（指導の下、清潔の援助、食事介助、移乗・移動介助）</li> <li>・バイタルサインの測定と観察</li> <li>・実施見学した内容の指導者への報告</li> </ul> <p>15:00～16:00</p> <p>学生カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・援助実施後の振り返りを指導者で行う</li> <li>・翌日の行動調整</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の状態を観察する <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサイン測定、身体診査</li> </ul> </li> <li>2) 対象の日常生活の状態を把握できたか確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔・衣生活の観察の視点</li> <li>・食事・排泄の観察の視点</li> <li>・姿勢・活動、休息・睡眠の観察の視点</li> <li>・日常生活動作を観察し自立度と生活行動を把握する</li> <li>・一日の生活様式（生活リズムや日課）</li> <li>・対象の日常生活の制限</li> </ul> </li> <li>3) ヘンダーソンのアセスメントガイドを基に情報を得る</li> <li>4) 基本的欲求に関する主観的情報 S・客観的情報 O を「体力」「意志力」「知識」の枠組みに分類する</li> <li>5) ヘンダーソンが述べているニードの充足している状態を踏まえ、標準・平均・正常・日常性と比較して充足・未充足の判断をする</li> </ol>	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3 修正・追加分</p> <p>様式 1-5 提出</p> <p>&lt;帰宅後&gt;</p> <p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3 修正・追加分の記録</p> <p>様式 1-5</p>
病棟実習4日目	<p>9:00～15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟へ全員揃って挨拶</li> <li>・行動計画の発表 行動調整</li> <li>・見学あるいは実施したいケアの内容を行動計画に基づいて発表する</li> <li>・不足の情報を確認し、進める</li> <li>・対象とのコミュニケーション</li> <li>・バイタルサインの測定と観察</li> <li>・指導者または教員と共にケアを一緒に実施する（指導の下、清潔の援助、食事介助、移乗・移動介助）</li> <li>・実施見学した内容の指導者への報告</li> </ul> <p>15:30～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生カンファレンス</li> <li>・実習目的に添いながら、気づきや感じたこと、考えたことを述べる</li> <li>・病棟スタッフおよび受け持ち対象への挨拶</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 3日目と同様 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験できなかった項目や不足の内容を考え、実践する</li> </ul> </li> <li>2) 受け持ち対象の本日の体調をつかむ <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した状態の把握（夜間の状況をカルテから情報収集できている）</li> </ul> </li> <li>3) 受け持ち対象における看護援助の意味を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の目的は対象にとってどうであったか</li> <li>・援助は対象にどのように影響したか</li> <li>・対象の安全性・安楽・自立をどのように考えるか</li> <li>・観察は対象に即した内容で、バイタルサイン測定が原理原則に基づき、正確に測定できたか</li> <li>・身体的・精神的・社会的側面から対象をどのように捉えることができたか</li> </ul> </li> </ol>	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3、1-5 修正・追加分</p> <p>提出</p> <p>&lt;帰宅後&gt;</p> <p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3、1-5 修正・追加分の記録</p>

分類	行動予定	学習内容	実習記録
実習5日目(学内学習)	実習全記録 自己学習ノート 技術経験録 リフレクションシート 実習自己評価表	1) 4日間の受持ち対象との関係を振り返る ・行った援助を振り返ることの大切さ ・対象と自己との関係性について振り返る ・対象の思いや考えの気付き ・わからない点は質問し目標達成に向けて意欲的に取り組むことができたか ・リフレクション(自己の課題・自己の看護観)	実習全記録

### 3. 看護技術の経験

確実に実施◎ 実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	バイタルサイン測定	実施	○	清拭・洗髪・手足浴	実施
◎	病床環境の整備・調整	実施	○	シャワー浴	実施
◎	ベッドメイキング	実施	○	食事の準備 食事配膳・下膳	実施
◎	リネン交換	実施	○	車椅子・ストレッチャー移乗・移送	実施
◎	手指衛生	実施	○	移動(体位変換)	実施
◎	医療廃棄物の処理方法	実施	○	排泄援助	実施

### 4. その他

- 1) 基礎看護学実習 I a と原則同じ病棟に学生を配置する。
- 2) 学生に同行し助言・指導しながら実習を進める。
- 3) 学生は2名1組で行動する。
- 4) 記録に関して
  - (1)行動計画表(様式1-1)は学生ペアで「実施項目・目的」を共有し、個々の学生が立案・評価を行う。
  - (2)看護技術カード(様式1-2)は、「ベッドメイキング・環境整備」と「生活援助技術1つ」について個々の学生が立案・評価を行う。
  - (3)基本情報(様式1-3)、フローシート(様式1-4)、看護過程アセスメント用紙(様式1-5)は、個々の学生が記述する。
- 5) 評価に関して
  - (1)中間評価なし。
  - (2)基礎看護学実習 I b 評価点60点。

5. 実習スケジュールと基礎看護学実習 I b 記録用紙一覧

様式No	用紙名	スケジュール
1-1	行動計画表	毎日記載
1-2	看護技術カード (ベッドメイキング・環境整備、生活援助技術の1つ)	生活援助技術については、実習3・4日目の間で記載
1-3-1	基本情報 (常在条件)	実習2日目
1-3-2	基本情報(病理的状态①)	実習2日目
1-3-3	基本情報(病理的状态②)	実習2日目
1-4	経過一覧表(フローシート)	バイタルサイン測定時に記載
1-5	アセスメント用紙	実習3日目以降
1-9	引用・参考文献	病棟実習終了後
1-10	リフレクションシート	

6. 実習記録・その他 提出ファイルの綴り方

<クリアファイル>

上から

- 1) 学生自己評価表 (原本)
- 2) リフレクションシート (コピー)
- 3) 看護学実習評価アンケート (学生用)
- 4) 臨地実習出席簿
- 5) 看護技術経験録

<実習ファイル>

上(表紙) 【 提出記録と綴り順番 】



- 1) リフレクションシート(様式1-10 原本)
- 2) 学生自己評価表 (コピー)
- 3) 学習行動自己評価表 (基礎 I b 実習用)

※ 1)～3)は、各々クリアブックに入れる

- 4) 行動計画表 (様式1-1) 前から日付順に綴る
- 5) 看護技術カード (様式1-2) 前から「ベッドメイキング・環境整備」「生活援助技術」の順に、各々クリアブックに入れて綴る
- 6) 基本情報 (様式1-3-1~3)
- 7) フローシート (様式1-4)
- 8) アセスメント用紙 (様式1-5)
- 9) 引用・参考文献 (様式1-9)

※ 4)～9)には、インデックスをつける

- 10) 自己学習ノート (クリアブックに入れる)

下

基礎看護学実習 I b 評価表 【 学生自己評価 】

実習施設		病院	病棟	学籍番号	実習期間	学生氏名	令和 年 月 日～ 月 日			
No	評価項目							最終	割合	
<b>I. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる</b>										
対象の理解	1	対象の生活背景がわかる							35% 得点 /21	
	2	病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる								
	3	対象の入院生活行動の情報を得ることができる								
	4	基本的ニーズが満たされているかがわかる								
<b>II. 対象に関心に向け、コミュニケーションを図ることができる</b>										
援助係的関	5	対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる								
	6	対象が病気や治療、入院生活に対して感じていることがわかる								
	7	倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる								
<b>III. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる</b>										
日常生活援助	8	バイタルサインの測定ができ、対象の状態をアセスメントできる							25% 得点 /15	
	9	対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整備ができる								
	10	看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる								
<b>IV. スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる</b>										
予感防染	11	感染予防のための行動がとれる								
	12	医療廃棄物の処理法の実際を理解できる								
<b>V. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる</b>										
のチーム員ム	13	他の職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる								
	14	チームの一員として責任ある行動がとれる								
<b>VI. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる</b>										
研自鑽己	15	自己の課題解決、目標達成に向けて取り組むことができる							40% 得点 /24	
	16	継続して学習する姿勢を有している								
<b>VII. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる</b>										
の看護確立観	17	実習での学びから、看護に対する自分の思いや考えを述べるができる								
<b>【評価基準】</b>								評価点	/60点	
5：できる（助言をほとんど必要とせずに行える）								4：だいたいできる（助言をすればできる）		
3：努力を要す（繰り返し助言をすればできる）								2：助言をしてもできないことが多い	時間数	/30h
0：助言してもできない										
自己評価										

基礎看護学実習 I b 評価 ガイダンス

	評価項目	評価内容	評価基準
対象の理解	I. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる	1. 対象の生活背景がわかる	1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理できている 2) 対象の生活背景(家族・職業・生活習慣・生活環境など)の特徴を捉えることができている
		2. 病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる	1) 基本的欲求を変容させる病理的状态の情報を分類・整理できている 2) 対象の健康レベルを理解できている 3) 病理的状态から、疾病の原因・症状、治療・検査の文献学習ができている
		3. 対象の入院生活行動の情報を得ることができる	1) 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集することができている 2) 基本的看護の構成要素 14 項目の情報を「体力」「意思力」「知識」で分類し整理することができている
		4. 基本的ニーズが満たされているかがわかる	1) 対象の入院前の生活習慣と現在の生活行動の比較、健康時の状態や標準値と比較し、基本的ニーズの充足・未充足を判断することができている 2) 基本的ニーズが未充足と判断した理由を記述することができている
援助的関係の形成	II. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる	5. 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1) 対象の行動予定、病状を確認してからコミュニケーションを図ることができている 2) 適切な言葉遣いや会話の内容を考え話すことができている 3) コミュニケーションの場や雰囲気作り・時間の工夫ができている
		6. 対象が病気や治療・入院生活に対して感じていることがわかる	1) 対象の話をありのまま受け止めながら会話することができている 2) 対象が病気や治療・入院生活で感じていることを知ることができている
		7. 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	1) 判断・行動する際には、相手の了解了承を得ることができている 2) 対象の反応を捉え自己の行動を調整することができている 3) プライバシーに配慮した行動がとれている
日常生活援助	III. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる	8. バイタルサイン測定ができ、対象の状態をアセスメントできる	1) バイタルサインを正確に測定できている 2) 測定した値を基準値・日常性と比較して正常か異常の判断ができている 3) その後の看護援助を実施してよいか、中止すべきかの判断とその理由を述べる事ができている
		9. 対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整備ができる	1) 対象の一日の過ごし方がわかっている 2) 日常生活行動における自立度を確認することができている 3) 対象に応じた環境調整・環境整備ができている

	評価項目	評価内容	評価基準
		10. 看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる	1) 病棟の看護計画を用い、対象に行われている日常生活援助を確認することができる 2) 基本的ニーズの未充足部分と実施されている援助の必要性を関連付けて述べることができる 3) 実施する看護技術の原理・原則を踏まえた事前学習ができています
感染予防	IV. スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる	11. 感染予防のための行動がとれる	1) 手洗い・擦式消毒の実施ができています 2) 一処置一手洗いの実施ができています 3) 指導の下、便・尿・血液など感染対象物を適切な方法で取り扱うことができます
		12. 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	1) 廃棄物の性状に応じたバイオハザードマークを理解することができる 2) 指導の下、施設の方法に準じた医療廃棄物の処理が確実に実施できている
チームの一員	V. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる	13. 他の職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる	1) 連携・協働する職種と主な役割が理解できたことを表現することができる 2) 連携・協働するなかで、情報の共有の必要性が理解できたことを表現することができる 3) 連携・協働する中で看護師の役割が理解できたことを表現することができます
		14. チームの一員として責任ある行動がとれる	1) 自分で解決できないとき、判断に迷う時は指導者・教員に相談できている 2) その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができている 3) 相手の指導・助言を素直に聴くことができている 4) 対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない 3) 実習メンバーと協力し学習を進めることができている
自己学習・自己研鑽	VI. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる	15. 自己の課題の解決、目標達成に向けて取り組むことができる	1) 実習の目的・目標、実習方法を理解できている 2) 自分で体験・実施したことの振り返りができている 3) 自己の課題を述べる事ができている
		16. 継続して学習する姿勢を有している	1) 事前学習・事後学習に取り組むことができる 2) 文献検索とその活用をすることができる 3) 学習ノート作成とその活用をすることができる
看護観の確立	VII. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる	17. 実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べる事ができる	1) 実習を通しての学びから看護に対する考えを自分の言葉で表現することができる 2) 対象との関わりを通して学んだことを記述することができる

## 基礎看護学実習 II

### 目的

対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、対象が必要とする看護を考え実践できる基礎的能力を習得する。

### 目標

1. 受け持ち対象の情報を用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる。
2. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる。
3. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる。
4. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる。
5. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる。
6. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる。
7. チーム医療に参加して、他職種との連携の必要性がわかる。
8. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる。
9. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 受け持ち対象の情報を用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる	<p>1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる</p> <p>2) 基本的欲求を変容させる病理的状态を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる</p> <p>3) 疾病や入院が対象の精神面にどのような影響</p>	<p>(1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象、家族、看護師との会話から情報収集</li> <li>・ 診療録・看護記録からの情報収集</li> </ul> <p>① 対象の生活背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院前の生活様式・生活習慣、生活環境、家族、職業</li> </ul> <p>② 入院前の身体的・精神的・社会的側面の情報収集</p> <p>③ 診断名・現病歴・既往歴</p> <p>入院時の状態・入院から受け持つまでの経過、対象・家族への説明内容と受け止め方</p> <p>④ 症状・検査結果・バイタルサイン・治療方針・治療内容</p> <p>⑤ 対象の日常生活行動と自立度</p> <p>入院後の一日の生活様式</p> <p>(2) 入院生活や疾病に関する対象の反応</p> <p>① 表情、態度、症状、行動の観察</p>	<p>a. 疾患に関する解剖生理、病態を学習</p> <p>b. 疾患の学習は、病名からだけでなく、その疾患のために体のどの部分に障害があり、生活にどのように支障が生じているのかを考える</p> <p>c. 看護過程の展開方法は授業を振り返り想起しながら進める</p> <p>d. 受け持ち対象の情報を整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象の疾患の概要と症状を関連付けて考える</li> <li>・ 対象の入院前の生活</li> <li>・ 生活習慣と疾患の関連</li> </ul> <p>e. 疾患が及ぼす精神的・社会的影響と生活への影響を考える</p> <p>f. 基本的欲求の未充足を常在条件、病理的状态と関連付け未充足の原因誘因を探る</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>を及ぼしている か理解できる</p> <p>4) 疾病や入院が 対象の社会面 にどのような影響 を及ぼしている か理解できる</p> <p>5) 基本的看護の 構成要素 14 項目 に沿って情報を 分類・整理できる</p> <p>6) 情報を関連付 けて基本的欲求 の充足状態を解 釈・分析できる</p> <p>7) 関連図を用い て対象の全体像 を捉え看護上の 課題を示すこと ができる</p>	<p>②入院生活や病気,治療に対する 思いを知る</p> <p>(3)疾病や入院による対象の社会 面への影響</p> <p>①余暇活動・人間関係の維持・ 経済基盤などへの影響</p> <p>②家族内役割・社会的役割の変 化</p> <p>(4)基本的看護の構成要素 14 項 目の情報収集・分類・整理</p> <p>①呼吸・循環・体温 ②栄養 ③排泄④姿勢・活動⑤睡眠・休 息⑥衣類・清潔⑦環境⑧コミュ ニケーション⑨信仰・信条⑩達 成感⑪レクリエーション⑫学 習</p> <p>(5)基本的欲求の充足状態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充足した状態、未充足の状態 を判断する</li> <li>・未充足状態の原因誘因を解釈・ 分析する</li> <li>・対象の充足状態を示す</li> <li>・看護の方向性を示す</li> </ul> <p>(6)関連図の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未充足のニードに対して、他 のニードと関連させ、原因・ 誘因を描ける</li> <li>・身体的・精神的・社会的側面か ら関連図を描く</li> <li>・看護上の課題を示す</li> </ul>	<p>a. ヘンダーソンのアセスメ ントガイドを用い客観的・ 主観的情報を収集・分類・ 整理</p> <p>b.発達段階を踏まえ、対象の 生活の視点から考える</p> <p>c.基本的欲求の状態を健康時 の状態や基準値、正常値、 日常性などと比較し未充足 の判断をする</p> <p>d.収集した対象の情報の意味 を考え解釈・分析する</p> <p>e.「体力」「意思力」「知識」 のいずれの不足によるもの か判断する</p> <p>a.関連図の記載ルール従って 描く</p> <p>b.アセスメントした内容を対 象の身体的・精神的・社会 的側面の関連を考えて描く</p> <p>c.看護課題を明らかにする 潜在的課題 顕在的課題</p>
2. コミュニケ ーションを図 り、対象の反応 を捉えその意味 を考えることが できる。	1)対象の状況に 応じたコミュニ ケーションを図 ることができる	1)コミュニケーションを図る	a.関係構築のためのコミュニ ケーションの基本を復習す る
		①適切な言葉遣いや会話の内容 を選択する	・言語的、非言語的コミュニ ケーション
		②会話をしながら、意図的に必 要な情報を得る	・コミュニケーション技法
		③対象に関心を向け、傾聴する 姿勢をもつ	b.場や時間の工夫
		④対象の状況(健康状態・検査 処置・面会者など)や日課・生	c.傾聴・共感
			d.他者への関心

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>2)対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる</p> <p>3)倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる</p>	<p>活リズムを考えコミュニケーションの場、雰囲気作り、時間の工夫をする</p> <p>(2)対象の思いを知る</p> <p>①対象との会話、表情、態度、行動を観察する</p> <p>②対象の話す内容を正確に受け止め思いを知る</p> <p>③不明な点は、必要時意味の確認をする</p> <p>④対象の価値観を知る</p> <p>(3)思いやる行動がとれる</p> <p>①対象の反応を捉え自己の行動を調整する</p> <p>②説明と同意の確認</p> <p>③了解了承を得てから看護援助の実施をする</p> <p>④対象の質問や要請に誠実に対応する</p> <p>⑤プライバシーに配慮した行動をとる</p> <p>⑥対象を尊重した態度で接する</p>	<p>e.状況や状態の把握と判断</p> <p>a.対象の主観的情報は客観的情報と関連付けて解釈し対象の思いを受容する</p> <p>b.対象の表情や行動から言葉の意味を考える</p> <p>c.判断がつかない場合は指導者の助言を求める</p> <p>a.対象の価値観の尊重</p> <p>b.信条を捉える</p> <p>c.対象のQOLを考える</p> <p>d.信頼関係、援助関係を成立させる</p> <p>e.ねぎらいの言葉掛け</p> <p>f.対応が困難な時、判断がつかない時は、指導者・教員へ相談し迅速な対応を図る</p> <p>g.プライバシーへの配慮</p>
3. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる。	<p>1)看護上の課題の優先順位を判断・決定できる</p> <p>2)対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる</p> <p>3)具体的な解決目標が設定できる</p> <p>4)対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる</p>	<p>(1) 看護課題とその優先順位を根拠をもって決定する</p> <p>①マズローのニード階層</p> <p>・生命の危険度</p> <p>・対象の苦痛の度合いや希望</p> <p>・健康あるいは健康回復に及ぼす影響</p> <p>・あるひとつの課題解決が他の課題解決に及ぼす影響</p> <p>(2)対象の看護目標と解決目標(期待される結果)を考える</p> <p>①RUMBAの法則</p> <p>(3)対象の看護課題を解決するための具体的援助方法を考える</p> <p>・OP 観察計画</p> <p>・TP ケア計画</p> <p>・EP 指導/教育計画</p>	<p>a. マズローのニード階層から看護課題の優先度を考える</p> <p>b.根拠を持って看護課題の優先順位を決定する</p> <p>c.対象の看護目標は目安として退院時に望ましい姿を表現する</p> <p>d.看護目標は健康レベル、疾病・治療から今後の経過を予測して目標立てする</p> <p>e.期待される結果は対象の現在の状況を把握し、達成可能な身近な目標を考える(経過を予測した根拠のある設定)</p> <p>f.対象の変容を推測し評価日</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		① 5W1H ②体力・意思力・知識の不足を補う計画 ③対象の希望・意向、自立度、日課、生活リズムに即した計画 ④予防的援助(潜在的課題) ⑤残存機能・持てる力を最大限に活用した援助方法 ⑥安全・安楽を考慮した援助 ⑦QOLを考慮した援助	を設定する g.看護計画は誰が見てもわかるよう5W1Hで具体的に記載する h.日常生活援助技術を中心に対象が必要とする生活援助の方法を考える
4. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる	1)目的・必要性・期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し、同意を得ている 2)対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる 3)対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる 4)対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる 5)全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる	(1)実施する援助 ・コミュニケーション技術 ・観察技術 ・バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント ・環境整備 ・清潔の援助 ・食事の援助・排泄の援助 ・寝衣交換・活動・休息の援助 (2)状態観察・アセスメントから援助を実施してよいかの判断とその理由を示す (3)実施する看護技術の原理原則を踏まえて手順を踏む：看護技術カードの作成 (4)実施する援助の目的・方法を説明し同意を得る (5)実施中の対象を観察して反応を捉える (6)安全・安楽に向けての援助 ・対象の苦痛や体力の消耗を最小限になるように配慮する ・プライバシーに配慮しながら実施する (7)自立・個別性に配慮した援助 ・対象のADLの自立、生活習慣、信条、嗜好などを考慮	a.バイタルサイン、身体の観察からフィジカルアセスメントをする b.実施する援助に必要な技術の原理原則の学習 c.対象への説明から後始末まで一連の看護援助を行う d.実施する援助の目的・必要性・期待される結果・事後の影響を理解して対象に説明 e.対象の理解度に合わせた説明方法を選択し同意を得る f.対象の反応を見ながら実施 g.安全・安楽・自立・個別性、プライバシーに配慮しながら実施 h.誰に、いつ、報告すべきか判断 i.看護技術カードを確認して対象に適しているか確認する j.対象の状態に応じて、看護技術カードを更新する

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
5. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる	<p>1) その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる</p> <p>2) 目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考察することができる</p> <p>3) 評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる</p>	<p>(1) 実施した看護援助の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助の方法は対象に適していたか</li> <li>・ 対象の安全・安楽への配慮ができていたか</li> <li>・ 実施した援助の内容について対象の満足度・充足度・自立度の考慮ができていたか</li> <li>・ 対象の反応を確認して実施できたか</li> </ul> <p>(1) 目標の達成結果を分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標が達成できた場合、効果があったものは何か</li> <li>・ 目標が達成できなかった場合看護過程のプロセスをフィードバックし、原因を明らかにする</li> </ul> <p>(1) 日々の評価に基づき、援助内容・方法の検討を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護課題、期待される結果の達成度や解決策の評価</li> </ul>	<p>a. 対象の反応や結果を確認し、行った援助を振り返る</p> <p>b. 計画した援助を実施し、期待される結果が達成されているか確認する</p> <p>c. その日の援助内容を振り返りアセスメントし、その結果を翌日の行動計画に反映させる</p> <p>d. 看護計画の評価日の評価において、計画の終了か続行か修正かを明確する</p> <p>e. 課題解決に向け目標がどの程度達成されているか評価</p> <p>f. 達成状況を根拠に基づいてアセスメントする</p> <p>g. 目標の達成度を判断する</p> <p>h. 計画の継続・修正・追加を判断する</p> <p>i. 看護目標の妥当性を考察する</p>
6. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる	<p>1) 感染予防のための行動がとれる</p> <p>2) 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる</p>	<p>(1) スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一処置一手洗いの実施</li> <li>② 手指衛生</li> <li>③ 便・尿・血液の付着したものの取り扱い</li> </ol> <p>(2) 個人防護用具</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 手袋・エプロン・マスクの着用方法と外し方</li> </ol> <p>(3) 医療廃棄物の分別方法</p> <p>(4) 感染性廃棄物のバイオハザードマークに基づいた処理(分別)</p>	<p>a. スタンダードプリコーション</p> <p>b. 手指衛生の方法</p> <p>c. リネン汚染(便・尿・血液)</p> <p>d. 病原菌による消毒薬の違い</p> <p>e. ディスポーザブル手袋、エプロン、マスクの着脱方法</p> <p>f. 感染性廃棄物の分別と表示の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオハザードマークの種別について</li> </ul> <p>g. 感染性廃棄物の取り扱い時の注意点</p>
7. チーム医療に参加して、他職種との連携の必要性がわかる	1) 他職種との連携・調整において看護師の役割がわかる	<p>(1) 他職種との協働・連携場面に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟カンファレンスに参加している職種と内容の確認</li> <li>・ リハビリカンファレンスに参</li> </ul>	<p>a. 他職種チームとしての情報共有と継続的な関わり</p> <p>b. 看護師の役割を考察する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の共有</li> <li>・ 健康回復・維持するための</li> </ul>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	2) チームの一員として責任ある行動がとれる	<p>加している職種と内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養指導場面の見学</li> <li>・看護と介護の連携場面の見学</li> </ul> <p>(2)看護師の役割を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 誰に、いつ、報告すべきかを判断し、時期を逃さずに報告する</li> <li>(2)自分で解決できない時、判断に迷う時は相談する</li> <li>(3)対象の状態を事実に基づき客観的な表現を用い報告する</li> <li>(4)場にふさわしい挨拶・身だしなみ・言葉遣いをする</li> <li>(5)指導、助言を素直に聞く姿勢を示す</li> <li>(6)プライバシーに配慮し知り得た情報を外部に漏らさない</li> <li>(7)実習メンバーと協力し学習を進める</li> </ol>	<p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種間との調整役割</li> <li>・継続看護の重要性</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>a.報告・連絡・相談</li> <li>b.情報の共有</li> <li>c.客観的・主観的情報</li> <li>d.守秘義務・プライバシーの保護</li> <li>e.リーダーシップ・メンバーシップ</li> <li>f.規律・規範を守る</li> <li>・挨拶、身だしなみ</li> <li>・言葉遣い</li> <li>・約束事を守る</li> <li>・自己の健康管理</li> <li>g.他者の意見を聴き入れ、自分の意見も伝える</li> <li>h.学生間の協力・協調</li> <li>i.学生間の情報の共有</li> </ol>
8. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる	<p>1)自己の課題解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる</p> <p>2)継続して学習する姿勢を有している</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)実習の目的・目標、実習方法を理解する</li> <li>(2)学生自己評価表を用いて適切に評価す</li> <li>(3)自己の課題を明らかにする</li> <li>(4)目標を定め、課題を解決する方法を示す</li> <li>(5)課題を解決するための行動を示す</li> <li>(6)カンファレンスで自己の考えを述べる</li> <li>(7)自己の技術レベルを認識し積極的に技術練習を行う</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)学習の習慣化</li> <li>(2)積み上げ学習</li> <li>(3)看護職としての自己研鑽の必要性</li> <li>(4)興味関心を示し主体的に学ぶ姿勢</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>a.既習の学習が看護の実践で活用されていることを確認</li> <li>b.自己課題を持って学習に取り組む</li> <li>c.目標達成に向け指導者・教員へ自ら助言を求める</li> <li>d.文献・既習学習を活用し学習を深める</li> <li>e.仲間に助言を求める</li> <li>f.看護技術カードを作成し、必要時更新していく</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>a.自己の生活行動、学習行動の特徴や傾向を知る</li> <li>b.自己の傾向を認識し行動を変容させる</li> <li>c.変容した姿を他者にわかるように示す</li> </ol>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
			d.常に既習学習、学習ノート 文献の活用をする e.看護学生倫理要領の意味を 理解する f.事前学習、事後学習に取り 組む
9. 看護の実際 を通して看護の あり方を考える ことができる	1)実習での学び から、看護に対す る自分の思い考 えを述べること ができる	(1)看護に対する自分の思い、考 えを論理的に相手に伝わるよ うカンファレンスで述べる (2)相手の意見を聴き、自分と他 者の違いを知り、自己の学びを 発展させる (3)リフレクションを行い、根拠 を示し看護に対する自己の考 えを記述する (4)理論の活用をする ナイチンゲール・ヘンダーソン	a.看護の過程を振り返り対象 を通しての学びを整理する b.既習の知識や理論を基に、 対象との関わりを分析し看 護とは何かを探求する c.看護理論（ナイチンゲール・ ヘンダーソン）を活かす d.看護の主要概念を確認する e.論理的思考を用いる ・帰納法・演繹法

## 実習方法

### 1. 対象の選定

- 1) 原則として成人期・老年期で慢性期・回復期にある対象。
- 2) 病態が複雑ではない。
- 3) 日常生活の援助を必要とする。
- 4) 言語的コミュニケーションが可能である。

### 2. 受け持ち学生ペアで共同学習

- 1) 対象1名に対して学生2名で受け持つ。
- 2) ペア学習における記録類の取り扱い

	ペアで共有する内容	個人で取り組む内容
行動計画表	<実施計画> 実施項目・目的・大まかな方法	1. 具体的な実施方法（実施手順・観察点） 2. 実施した内容・結果、評価（考察）
看護技術カード	1. 実施する看護技術と実施目的 2. 実施する場所・必要物品・所要時間	1. 実施方法（観察含む）、根拠・留意点 2. 実施後の評価
看護過程の展開	1. S/O 情報 2. 未充足のニード項目 3. 看護上の課題と優先順位 4. 看護目標・期待される結果 5. 実施・評価の「期待される結果」の 到達度	左記の内容を共有させ、記録整理は個々で 行う

- 3) 看護援助は、互いに立案した行動計画表・看護技術カードを元に協力・役割分担し実施する。

### 3. 実習の進め方

分類	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	1.実習全体オリエンテーション 2.基礎看護学実習Ⅱオリエンテーション 3.病棟の特徴、概要については担当教員よりオリエンテーションを受ける 実習施設の集合時間・場所の確認 4.実習準備学習の確認 5.看護技術の練習	1)臨地実習要綱 学生心得・注意事項を把握 2)基礎看護学実習Ⅱの実習目的・目標・実習方法を把握 3)病棟配置・ペア学生・担当教員を確認する 4)実習担当教員との打ち合わせ (1)グループリーダーの決定 (2)受け持ち対象の決定・基礎情報の受け取り (3)初日の行動計画表を提出して助言・指導を受ける ※学生二人で行動の時間配分、実習内容を打ち合わせして、具体的な動きをイメージし、個々で立案する 5)事前学習 (1)看護展開技術 授業での資料活用 (2)健康レベルの特徴、発達段階・発達課題 (3)疾患に関連した解剖生理・病態生理、検査・治療、看護 (4)看護技術の原理・原則、手順、実施の根拠・留意点 (5)日常生活援助の技術練習	様式1-1 実習開始の前週で提出させ添削する  様式1-2 ※自己学習ノート
病棟実習1週目	《実習初日》 9:00～ ・学生病棟挨拶 ・臨地実習指導者紹介 ・病棟オリエンテーション ・実習の説明と同意 ・受け持ち対象の決定 ・対象オリエンテーション ・受け持ち対象へ挨拶 ・受け持ち対象の情報収集、コミュニケーション、看護援助の見学・参加  15:00～ショートカンファレンス ・本日の振り返り ・翌日の行動計画	※日常生活援助を行いながら、受け持ち対象の情報収集を行う 1)病棟への挨拶と学生紹介 2)病棟オリエンテーションを受ける ・構造・設備・特殊性 ・看護方針や体制 ・月間・週間予定 ・入院対象の特性 ・物品の保管場所や管理方法 ・記録物の種類と閲覧方法 3)受け持ち対象の紹介 ・対象紹介 ・今週のスケジュール ・病状・治療方針 ・禁忌事項 ・大まかな看護ケア 4)指導者と本日の行動計画内容の確認・調整 5)対象の病棟看護計画を確認 6)診療録・看護記録からの情報収集を行う 7)対象とコミュニケーションを図りながら情報収集 ・対象との意図的な関わりからの情報収集 ・個人情報保護法に基づく守秘義務の遵守 ・報告・連絡・相談 8)対象の看護援助・ケア計画を確認し、翌日から指導のもと日常生活援助を行いながら看護過程の展開学習を進める 9)ショートカンファレンスは学生が主体となり運行する ・本日の学びと、本日の目標の達成度 ・翌日の実施計画についての相談 疑問の解消	様式1-1 提出(毎日)  様式1-2 様式1-3 様式1-5 随時記録 2日目 様式1-3 朝提出  3日目 様式1-3 修正・追加 様式1-5 朝提出  4日目 様式1-5 修正・追加 提出

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習1週目	《実習2日目以降》 9:00～ ・行動計画発表 ・行動調整 ・前日～夜間の対象情報収集 ・実施計画に基づき看護ケアの実施 15:00～ショートカンファレンス 《木曜日》 15:30～ テーマカンファレンス 《金曜日》 9:00～16:00 学内学習	1)前日の実施した内容・結果・評価(考察)を踏まえた実施計画を立案する 2)生活援助を中心としたケアを通して受け持ち対象と関わり、ヘンダーソンの看護理論に基づき看護の思考過程を整理し、対象に日々実施している援助の目的・根拠を明確にしていく 3)実施計画は、対象のスケジュールに沿い立案し、情報と照らして、実施可能か考える 4)本日の看護目標の設定は、対象の期待される結果を考え、対象サイドに立った目標になっているか確認する 5)見学実施したいと考えている援助については、予め看護技術カードを作成して臨む ・日常生活援助技術を中心に対象に必要な生活援助を考える ・受け持ち対象の特徴を捉えることができれば、対象にあった技術を工夫し、必要時看護技術カードを更新していく 1)週末カンファレンス(木曜日): 事例検討 「テーマ: 看護上の課題と看護の方向性について」 2)司会などカンファレンスの運行は学生が主体的に行う	
病棟実習2週目	9:00～16:00 1週目と同様 ・関連図 ・看護課題と優先順位の根拠 ・看護計画立案後は計画に沿って看護援助を実施 ・日々実施した援助を評価し個別的な援助を検討 《木曜日》 15:30～テーマカンファレンス ・実習中間評価 3者評価し3週目の課題を明確にする ※看護技術経験録の確認 《金曜日》 9:00～16:00 学内学習	※1 週目で得た情報から、身体的・精神的・社会的な側面を対象の概要を把握する(全体像の把握) 1)関連図から看護上の課題を明確にし、優先順位を決定する 2)優先順位の高い課題(上位2つ)に対して看護計画を立案する 3)対象の安全・安楽・自立を考え、具体的にOP/TP/EPを計画 4)看護計画に沿って根拠に基づき日常生活援助を実施し、実施したことを評価する 1)2週目週末カンファレンス(木曜日): 事例検討 「テーマ: 看護計画 看護目標と具体的看護援助について」 2)中間評価(3者評価) ・学生、臨地実習指導者、実習担当教員それぞれ項目に沿って評価する ・実習目標の達成度と実習での自己課題を明確にする。 1)看護計画実施状況の確認 受け持ち対象の現在の状態と今後の予測されることを関連させながら必要な看護を導き翌週の実習計画に反映させる 2)中間評価から、後半の実習に向け自己課題に対する具体的取り組みを明らかにしておく	様式1-6 様式1-7 様式1-8 提出 以降、随時修正・追加分を提出

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習3週目	<p>9:00～16:00 1・2週目と同様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価日に期待される結果の達成度をアセスメント</li> <li>・評価に基づき看護計画の修正(継続・修正・追加・終了の判断)</li> <li>・対象の回復状態、症状に合わせて看護実践していく</li> <li>・対象との援助的関係の形成を振り返る</li> <li>・期待される結果の達成度を分析しその原因を考える</li> <li>・看護目標の妥当性を考察</li> </ul> <p>《病棟実習最終日》</p> <p>15:30～テーマカンファレンス 技術経験録の提出 病棟スタッフ及び対象に挨拶</p> <p>《実習最終日》</p> <p>9:00～16:00 学内学習</p>	<p>※2週目に立てた看護計画内容で、行動計画表が立てられているか確認</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)学生カンファレンスでの助言・指導を反映させる</li> <li>2)看護計画に沿った実践を振り返り、評価し修正を試みる</li> <li>3)中間評価から自己課題に取り組む</li> <li>4)看護技術体験できなかった項目や不足の内容を考え、実践できるよう準備をする</li> <li>5)期待される結果の達成度を判断する</li> <li>6)達成ができた根拠、できなかった場合は看護過程のプロセスを振り返り原因を探る</li> <li>7)看護目標の達成度・妥当性を評価する</li> </ol> <p>3週目最終カンファレンス(木曜日):事例検討 「テーマ:看護過程評価及び自分が行った看護に対する考え」</p> <p>※リフレクション(3週間の受持ち対象との関係を振り返る)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)対象と自己との関係性について振り返る</li> <li>2)対象の思いや考えを受け止め看護援助に反映できたかを考える</li> <li>3)わからない点は質問し目標達成に向けて意欲的に取り組むことができたか</li> <li>4)リフレクションシートに実施した看護を振り返り、考察し自己課題を明確にする</li> </ol>	<p>様式1-8 実施・評価</p> <p>実習全記録 自己評価表 技術経験録 自己学習ノート リフレクションシート 出欠席簿</p>

#### 4. 看護技術の経験

確実に実施◎ 実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	バイタルサイン測定	実施	◎	清拭・洗髪・手足浴	実施
◎	病床環境の整備・調整	実施	◎	食事の準備 食事配膳・下膳	実施
◎	ベッドメイキング	実施	◎	車椅子・ストレッチャー移乗・移送	実施
◎	リネン交換	実施	◎	移動(体位変換)	実施
◎	手指衛生	実施	○	シャワー浴	実施
◎	医療廃棄物の処理方法	実施	○	排泄援助	実施

#### 5. 看護過程展開のスケジュールと基礎看護学実習Ⅱ記録用紙一覧

様式No	用紙名	スケジュール 提出期限
1-1	行動計画表	毎日朝
1-2	看護技術カード	毎日朝または更新時
1-3-1	基本情報(常在条件)	実習2日目
1-3-2	基本情報(病理的状态①)	
1-3-3	基本情報(病理的状态②)	
1-4	フローシート	毎日朝
1-5	アセスメント用紙	実習1週目木曜日
1-6	全体像(関連図)	実習2週日月曜日
1-7	看護上の課題 優先順位の根拠	実習2週日月曜日
1-8-1	看護計画用紙(看護目標・解決目標・具体策)	実習2週目火曜日
1-8-2	看護計画用紙(実施・評価、看護目標の評価)	実習3週目木曜日
1-9	使用文献一覧表	実習3週目金曜日
1-10	リフレクションシート	実習3週目金曜日

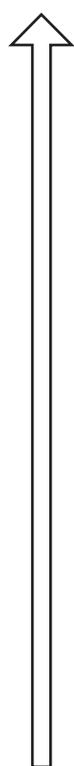
## 6. 実習記録・その他 提出時の綴り方

<クリアファイル>

- 上から
- 1) 学生自己評価表 (原本)
  - 2) リフレクションシート (コピー)
  - 3) 看護学実習評価アンケート (学生用)
  - 4) 臨地実習出席簿
  - 5) 看護技術経験録

<実習ファイル>

上(表紙) 【提出記録と綴り順番】



- 1) リフレクションシート(様式1-10 原本)
- 2) 学生自己評価表 (コピー)
- 3) 学習行動自己評価表
- ※ 1) ~ 3) は、各々クリアブックに入れる -----
- 4) 行動計画表 (様式1-1) 前から日付順に綴る
- 5) 看護技術カード(様式1-2) 技術項目別にクリアブックに入れ、新しい日付が一番上になるように重ねて入れる
- 6) 基本情報 (様式1-3-1~3)
- 7) フローシート (様式1-4)
- 8) 看護過程アセスメント用紙 (様式1-5)
- 9) 全体像(関連図) (様式1-6)
- 10) 看護上の課題・優先順位の根拠 (様式1-7)
- 11) 看護計画用紙 (様式1-8-1~2)
- 12) 引用・参考文献一覧表 (様式1-9)
- ※ 4) ~12) には、インデックスをつける -----
- 10) 自己学習ノート (クリアブックに入れる)

下

基礎看護学実習Ⅱ評価表 【 学生自己評価 】

		学籍番号	学生氏名							
実習施設	病院	病棟	実習期間	令和	年	月	日～	月	日	
No	評価項目						中間	最終	割合	
<b>I. 受け持ち対象の情報を用いてアセスメントして、看護上の課題が明確にできる</b>										
対象の理解	1	基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる								40% 得点/40
	2	基本的欲求を変容させる病理的状态を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる								
	3	疾病や入院が対象の精神面にどのような影響を及ぼしているか理解できる								
	4	疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる								
	5	基本的看護の構成要素14項目に沿って情報を分類・整理できる								
	6	情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる								
	7	関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる								
<b>II. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる</b>										
係援の助的成関	8	対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる								30% 得点/30
	9	対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる								
	10	倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる								
<b>III. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる</b>										
看護計画立案	11	看護上の課題の優先順位を判断・決定できる								30% 得点/30
	12	対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる								
	13	具体的な解決目標が設定できる								
	14	対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる								
<b>IV. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる</b>										
日常生活援助	15	目的・必要性・期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し同意を得ている								30% 得点/30
	16	対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる								
	17	対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる								
	18	対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる								
	19	全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる								
<b>V. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる</b>										
評価	20	その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる								30% 得点/30
	21	目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考察することができる								
	22	評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる								
<b>VI. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる</b>										
予感防染	23	感染予防のための行動がとれる								30% 得点/30
	24	医療廃棄物の処理法の実践を理解できる								
<b>VII. チーム医療に参加して、他職種との連携の必要性がわかる</b>										
のチー ム員ム	25	他職種との連携・調整において看護師の役割がわかる								30% 得点/30
	26	チームの一員として責任ある行動がとれる								
<b>VIII. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる</b>										
研自 鑽己	27	自己の課題解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる								30% 得点/30
	28	継続して学習する姿勢を有している								
<b>IX. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる</b>										
の看 確護 立観	29	実習での学びから、看護に対する自分の考えを述べるができる								30% 得点/30
<b>【評価基準】</b>							評価点	点		
5：できる(助言をほとんど必要とせずできる)							4：だいたいできる(助言をすればできる)			
3：努力を要す(繰り返し助言をすればできる)							2：助言してもできないことが多い			
0：助言してもできない							時間数		/90	
自己評価										

基礎看護学実習Ⅱ 評価ガイダンス

分類	評価項目	評価内容	評価基準
対象理解	I. 受け持ち対象の情報をを用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる	1. 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる	1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理できている 2) 対象の生活背景(家族・職業・生活習慣・生活環境など)の特徴を捉えることができている 3) 発達段階・発達課題の特徴と対象の個別性を関連付けて述べる事ができている
		2. 基本的欲求を変容させる病理的状态を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1) 基本的欲求を変容させる病理的状态の情報を分類・整理できている 2) 対象の健康レベルを理解できている 3) 病理的状态から、疾病の原因・症状、治療・検査が理解できている 4) 対象の疾病や障害の経過、現在の状態・自立度を捉えることができている
		3. 疾病や入院が対象の精神面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1) 対象の入院生活に対する思い、疾病や治療に対して感じていることを述べる事ができている 2) 入院生活や治療が対象の精神面に及ぼす影響について述べる事ができている
		4. 疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1) 疾病や入院により、対象の社会面(就労生活・家庭生活・余暇活動人間関係の維持・経済基盤など)への影響について述べる事ができている 2) 対象の家族内役割・社会的役割の変化を述べる事ができている
		5. 基本的看護の構成要素 14項目に沿って情報を分類・整理できる	1) 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集し、基本的看護の構成要素 14項目の情報を分類・整理することができている
		6. 情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる	1) 対象の入院前の生活習慣と現在の生活行動の比較、健康時の状態や標準値と比較し、基本的ニーズの充足・未充足を判断することができている 2) 未充足ニーズに対して他のニーズと関連させ、原因・誘因の解釈・分析ができている 3) 未充足の原因・誘因を体力・意思力・知識のいずれの不足によるものか判断することができている 4) 充足するため日常生活援助が考えられ看護の方向性を述べる事ができている
		7. 関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる	1) 対象の身体的・精神的・社会的な側面を統合し関連図を描くことができている 2) 未充足ニーズの結論を踏まえ、対象の現状から必要としている看護課題を抽出することができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
援助的関係の形成	Ⅱ. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる	8. 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1) 対象へ適切な言葉遣いや内容の会話ができている 2) 会話の中から意図的に看護に必要な情報を収集できている 3) 対象に関心を向け、傾聴する姿勢で接することができる
		9. 対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる	1) 対象との会話・表情・態度・行動を観察し対象の思いを述べることができる 2) 話の内容を正確に受け止め、必要時意味を確認することができる
		10. 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	1) 判断・行動する際には、相手の了解了承を得ることができる 2) 対象からの質問や要請に誠実に対応することができる 3) 対象の話を真剣に聴き、心情を思いやることができる 4) 対象を尊重した態度で接することができる
看護計画立案	Ⅲ. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる	11. 看護上の課題の優先順位を判断・決定できる	1) 看護課題の優先順位の根拠を記載することができる 2) 看護課題の優先順位を決定することができる
		12. 対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる	1) 健康レベル、疾病・治療から今後の経過を予測することができる 2) おおよその目安として退院時に望ましい対象の姿を表現することができる
		13. 具体的な解決目標が設定できる	1) 期待される結果として身近な目標を設定することができる 2) 援助による対象の変容を推測して評価日を設定することができる
		14. 対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる	1) 対象の個別性(年齢・性別、習慣・嗜好、心理状態)に応じた方法で日常生活の援助を考えることができる 2) 対象の病状・症状・自立度に応じた援助の方法を考えることができる 3) 対象にとって安全・安楽な方法を考えることができる
日常生活援助	Ⅳ. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる	15. 目的・必要性・期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し、同意を得ている	1) 実施する援助の目的・必要性・期待される結果・事後の影響を理解することができる 2) 対象の意向も確認しながら、反応を捉え説明することができる 3) 対象の理解度に合わせた説明方法を選択し、同意を得ることができる
		16. 対象の状態を把握し、実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる	1) フィジカルアセスメントにより、対象の状態や変化を常に把握することができる 2) 対象の状態から実施してよいかの判断をすることができる

分類	評価項目	評価内容	評価基準
日常生活援助		17. 対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる	1) 援助にあたり実施前に本人であることの確認を十分行うことができている 2) 準備・施行・後始末の各段階を原理原則、科学的根拠に基づいて実施することができている 3) 対象の個別性(年齢・性別、病状、習慣・嗜好、心理状態)に応じた方法で日常生活援助を実施することができている 4) 観察・実施したことの事実を報告することができている
		18. 対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる	1) 対象の意向や生活様式を尊重した方法を工夫し実施することができている 2) 実施中、対象の表情や言動を観察・確認しながら実施することができている 3) 対象の状態に応じて実施方法を調整することができている
		19. 全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる	1) 不必要な露出を避け実施することができている 2) 対象の人格を尊重し、理解・受容した態度をとることができている 3) プライバシーの保持・守秘義務を理解して行動することができている
評価	V. 行った援助を振り返り、評価・修正できる	20. その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる	1) 行った援助に対して対象の反応を捉えることができている 2) 安全・安楽の視点から実施した援助を評価することができている 3) 自立・個別性の視点から実施した援助を評価することができている 4) その日の評価内容を反映させ翌日の行動計画を立案することができている
		21. 目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考察することができる	1) 期待される結果と照らし合わせて、目標の達成度を判断することができている 2) 目標が達成できた場合、援助行為の何が、何故良かったのかを明確にすることができている 3) 目標が達成できなかった場合、看護過程のプロセスを振り返り原因を明確にすることができている
		22. 評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる	1) 科学的根拠に基づき評価した結果から、看護計画(看護上の課題、目標、具体策)の継続・修正・追加をすることができている 2) 看護目標の妥当性を考察できている
感染予防	VI. スタンドアードプリコーションに基づいて感染予防	23. 感染予防のための行動がとれる	1) 手洗い・擦式消毒の実施ができている 2) 一処置一手洗いの実施ができている 3) 指導の下、便・尿・血液など感染対象物を適切な方法で取り扱うことができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
	行動が実施できる	24. 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	1) 廃棄物の性状に応じたバイオハザードマークを理解できている 2) 指導の下、施設の方法に準じた医療廃棄物の処理が確実に実施できている
チームの一員	VII. チーム医療に参加して他職種との連携の必要性がわかる	25. 他職種との連携・調整において看護師の役割がわかる	1) 他職種との協働・連携場面に参加し看護師の役割を述べてきている 2) 対象を取り巻く人々の連携や継続看護の重要性を表現できている
		26. チームの一員として責任ある行動がとれる	1) 正確な状況報告・伝達と時間の調整ができている 2) その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いできている 3) 相手の指導・助言を素直に聴くことができている 4) 対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない 5) グループメンバーとして協力・協調がとれている
自己学習・自己研鑽	VIII. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる	27. 自己の課題の解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる	1) 実習の目的・目標、実習方法を理解できている 2) 自分で実施したことの振り返りができている 3) 自己の課題を示すことができている 4) 課題に取り組むことができている 5) カンファレンスで自分の考えを述べている 6) 技術習得に向けて積極的に取り組むことができている
		28. 継続して学習する姿勢を有している	1) 事前学習・事後学習に取り組むことができている 2) 文献を用いて学習をすることができている 3) 学習ノートを作成とその活用をすることができている 4) 必要時、看護技術カードの更新をすることができている
看護観の確立	IX. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる	29. 実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べるができる	1) 看護を実践したなかでの気づき思いを述べている 2) カンファレンスで自分が行った看護を相手に伝えるように述べている 3) 対象との関わりを通して学んだことを記述することができている